

第10回 理研

「バイオものづくり」 シンポジウム

近年、合成生物学が注目を集めるようになってきています。ゲノム・レベルから、セントラル・ドグマにいたるまで、生物の深部の機構を人工的に操作することが可能になってきました。本シンポジウムでは、現在の科学で操作可能なレベルを議論するとともに、その基盤技術を用いた「バイオものづくり」の可能性を探ります。

【会場】 独立行政法人理化学研究所 大河内記念ホール

2015年3月6日(金曜日) 10:00~17:45

参加無料

プログラム

- 10:00-10:30 上田 一樹 (理 研) 相分離を利用したペプチド分子集合体の作製
- 10:30-11:30 木賀 大介 (東工大) 合成生物学によるものづくりの展開
- 11:30-12:30 池袋 一典 (農工大) in silico maturation 法を用いたアプタマーの機能改良
- 昼食
- 13:30-14:30 坂本 健作 (理 研) 生物の遺伝暗号の改変と応用
- 14:30-15:30 宮崎 健太郎 (産総研) リボソーム改変によるバクテリア細胞工学
- 休憩
- 15:45-16:45 加藤 潤一 (首都大) 「ミニマムゲノム大腸菌」および「光合成大腸菌」作製の試み
- 16:45-17:45 四方 哲也 (阪 大) 人工細胞モデルを用いた実験進化

参加ご希望の方は①氏名②所属③連絡先を a-nose@riken.jp までご連絡下さい。

申込み締め切り：2015年3月5日(木)

URL： <http://www.riken.jp/pr/events/symposia/>